

# 女川第二原発再稼働の意義はあるか？

東北電力は、原発は安定供給、経済効率性、環境適合の観点から重要な電源であると述べている。そこで女川第二原発（出力 82.5 万 kW）の再稼働の意義について点検してみよう。

「安定供給」＝「再エネは不安定で、安定した電源が必要」との主張。太陽光発電は天気の良い日は約 550 万 kW を発電するに至った。確かに雨や曇りの日は大幅に低下するが、夜間は毎日、発電量は 0。それでも安定供給に支障は生じていない。今年 2 月福島沖地震で火力発電所が被災し、246.8 万 kW の電源を長期間失ったが、停電は発生しなかった。

「経済効率」＝「再稼働の費用は 3,400 億円」と見込んでいるが、燃料費が 300 億円/年削減出来るので費用は回収出来ると言う。ところが原発の維持経費に 900 億円余りを毎年かけて来ている。300 億円の削減のために、これだけの経費と投資を行うのは馬鹿げた話だ。

「環境適合」＝GW の 5 月 4 日東北電力の再エネ率が 87.7%に達した。当初 100%越えが予想され再エネ出力制御が予告されていた。原発が再稼働すれば、再エネの出力制御が頻繁に発生するのは確実。更に水力発電も抑えられる。東北電力は 256 万 kW もの水力発電を保有するが、5 月 4 日には 195 万 kW まで絞った。CO2 を排出しないからと言って再稼働させ、その裏で太陽光発電や水力発電の出力を制御するのであれば、それは欺瞞と言わなければならない。

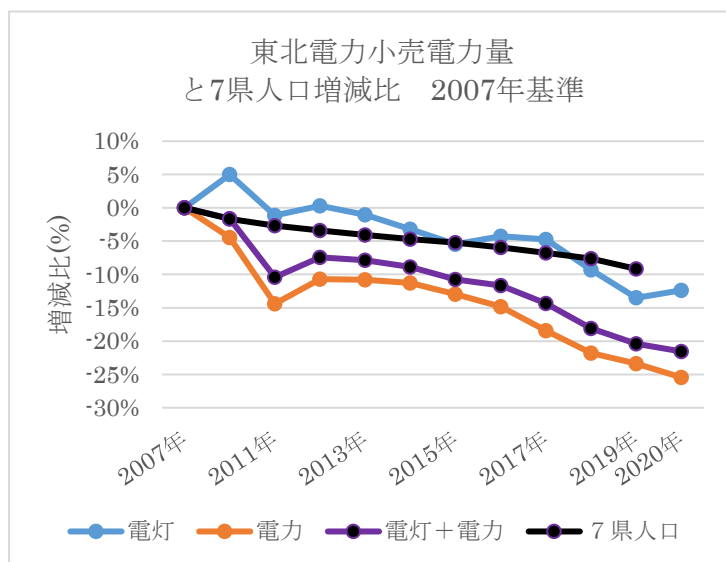
競争激化と人口減少により、発電・売電事業は利益の出ない構造になっている。東北電力の発電・売電部門の利益率は僅か 0.8%。原発 4 機が稼働している九州電力の発電・売電部門は赤字だった。東北電力は政府の方針に寄り添い原発を延命させるのではなく、早急に事業転換を図る時期に来ている事を認識しなければならない。  
(きらきら発電理事 太斎義明)

## 東北電力の小売電力量は最高売上時の2割強も下落

### 今後も人口減少・小売自由化で下落確実→原発再稼働の必要性はない

2021 年 6 月 25 日開催の東北電力株主総会の資料より、東北電力の経営状況を紹介します。電力小売は企業用の電力と家庭用の電灯に区分される。企業用の電力は 2011 年の震災を契機に産業構造変化や節電、新電力への切替えが進み、2007 年と比較し 2.5 割も落ち込んでいる。家庭用の電灯は人口減少に合わせて減ってきて、2018 年以降は新電力の影響もあって、人口減少率を上回る低下となっている。電灯と電力の合計でも最高売上の 2007 年と比較し、2 割強の落ち込み

みである。東北 6 県はこの 5 年間に 36 万 6377 人減り、このままゆけば 15 年後秋田県 1 県の人口(98 万人)が消えてゆくことになる。(太斎義明)



きらきら発電市民共同発電所ニュース

2021年8月号 第80号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話・FAX 022(379)3777

HP [kirakirahatuden.com/](http://kirakirahatuden.com/)

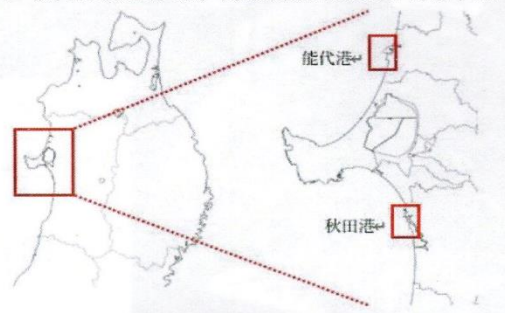
Eメール [hirohata3777@outlook.jp](mailto:hirohata3777@outlook.jp)

# 秋田沖洋上風力発電、5月着工

## 2022年末に33基138,600kw運転開始予定

秋田洋上風力発電(AOW)は5月11日能代港で洋上風力の基礎工事を開始。秋田港でも工事が始まる予定で、2022年末33基138,600kWが運転開始となる予定です。

＜図表1＞秋田港・能代港の港湾区域。両港の間にあるのが男鹿半島。



### 沖合の洋上風力の環境アセス

### 10事業・700万kw名乗りで

港湾内の風力発電に続き、秋田沖合の公募が5月27日締め切られ、10事業・700万kWの洋上風力発電所が環境アセスメントの手続きに入っています。以上、「創エネ時報」6月号より転載しました。

＜図表2＞秋田沖の洋上風力発電計画で環境アセスメント手続き中の10事業

実施海域	事業者	出力規模(最大)
能代市・三種町・男鹿市の地先海域	秋田県北部洋上風力合同会社	45万5000kW
能代市・三種町・男鹿市の沖合	住友商事(株)	54万kW
能代市・三種町・男鹿市の沿岸域、沖合	中部電力(株)、三菱商事パワー(株)	48万kW
由利本荘市の地先海域	秋田由利本荘洋上風力合同会社	100万kW
由利本荘市の沿岸域、沖合	中部電力(株)、三菱商事パワー(株)、(株)ウエンティ・ジャパン	84万kW
由利本荘市の沿岸域、沖合	日本風力開発(株)	78万kW
由利本荘市沖(北側・南側)の促進区域	秋田由利本荘洋上ウインドエナジー(株)	84万kW
能代市・八峰町の地先海域	合同会社八峰能代沖洋上風力	18万kW
秋田市・潟上市の地先海域	秋田中央海域洋上風力発電合同会社	50万kW
八峰町・能代市・三種町・男鹿市の沿岸域、沖合	日本風力開発(株)	150万1000kW

[秋田県HPの情報に基づき筆者作成。2021年5月10日現在]

## 輸入木質バイオマス発電建設・計画が県内で目白押し

### 「バイオマス発電の現状と問題点」オンライン学習会企画

宮城では角田・石巻での海外輸入植物油発電、仙台港での住友・レノバ社による輸入木質バイオマス発電が建設・計画されています。さらに登米市東和町・迫町の2か所でも計画されており、7月15日に登米市市議会教育民生常任委員会が建設予定地の現地調査と地域住民との意見交換会を行いました。きらきら発電では「地元産の木材を使って、地元の企業が地元住民と協同して進めるバイオマス発電」は「カーボンゼロ」

「持続可能な社会作り」の立場から賛成する立場にありますが、輸入材料を使うバイオマスには疑問符を抱いています。そこで9月か10月の土日に、NPO法人バイオマス産業社会ネットワークの迫みゆき様を講師に、オンライン学習会を企画することにしました。参加は50人まで、参加費無料です。参加を希望される方はきらきら事務局広幡宛に連絡ください。メールでの申し込みが1番対応しやすいのですが、電話でも結構です。

